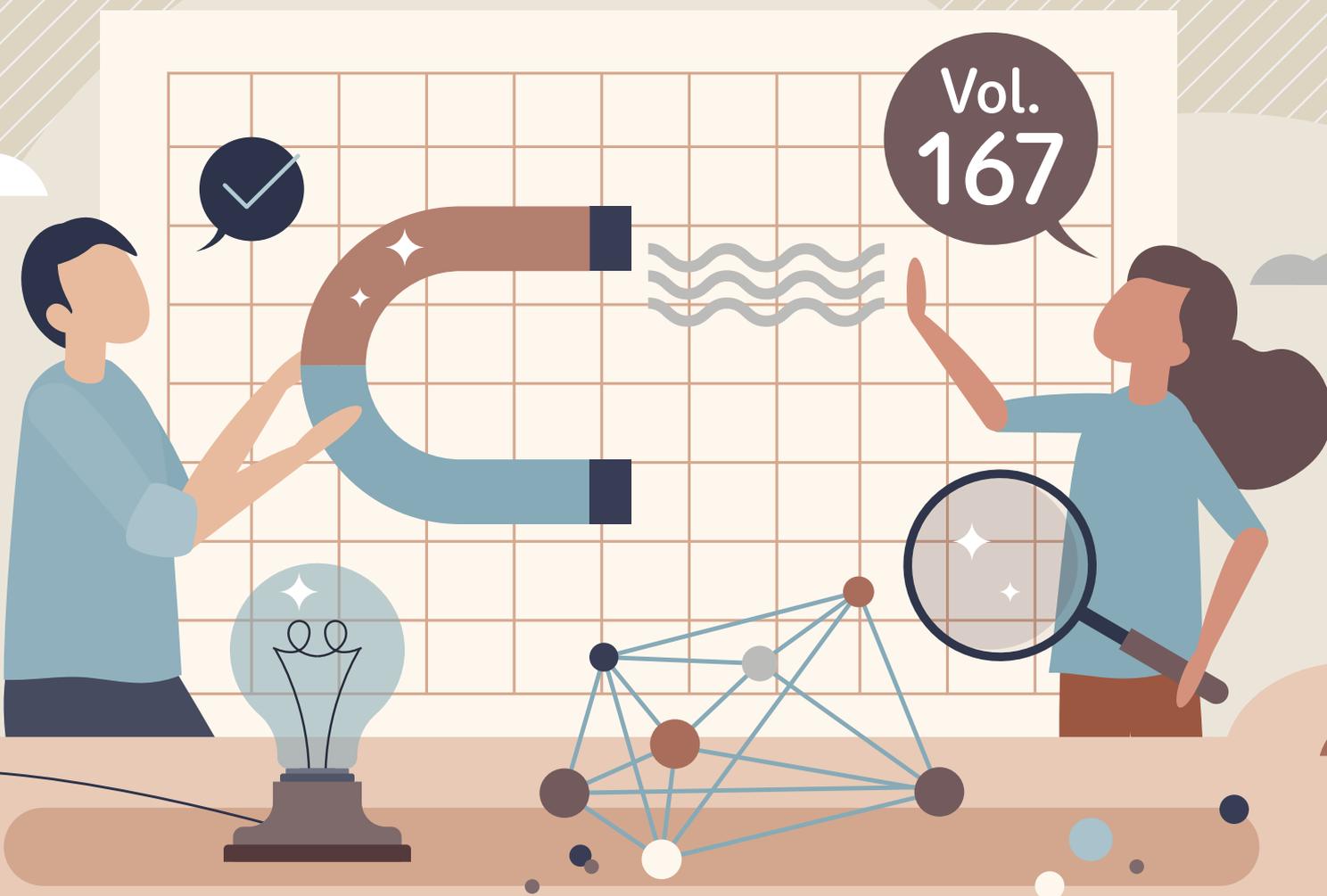


高専通信

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE



高専祭

冬季体育大会

保護者懇談会

ロボコン

工場見学旅行

総合研修旅行

ニュージーランド
EIT研修座談会

インターンシップ
Q&A

2025年3月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係
[URL]<https://www.tomakomai-ct.ac.jp> [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

新年のご挨拶

苫小牧工業高等専門学校 校長 小林幸徳

2025年を迎え、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和6年度は苫小牧高専創立60周年を祝うとともに、DX人材育成、半導体人材育成、グローバル人材育成と極めて多様な人材育成に取り組む年となりました。その中でも、高度情報専門人材の育成体制強化を目指して申請していた「令和6年度大学・高専成長分野転換支援基金助成金」が採択となったことは、本校におけるこれまでの取り組みに対する高い評価であるとともに、更なる飛躍に対する期待でもあり、身の引き締まる思いです。今後数年間の準備期間において、新たな情報系人材育成のための施設とカリキュラムの整備に取り組む予定です。

グローバル人材育成に関しては、本校としては初めての常勤外国人教員であるフェルナンド先生が特命准教授として着任されました。フェルナンド先生には、化学系の授業のほか、新たな国際交流の企画立案や海外協定校の開拓などに尽力いただいています。また、8月には低学年学生のタイでの海外研修、高学年学生のニュージーランドでの海外研修を実施しました。加えて、本校においてマレーシアADTEC教員研修ならびにモンゴル高専教員研修を実施するなど、国際活動が活発に行われました。

北海道における半導体産業の新展開を受けて、道内4高専では、幅広い視点から半導

体とその産業への理解を深める目的で「北海道半導体みらい論」を開設しました。道内4高専の各専門分野（機械系、電気電子系、情報系、化学系、社会基盤系）の教員に加え、産業界や経済産業省北海道経済産業局の方も講師に迎えたオムニバス形式の授業となっており、本校では1〜2年生の選択科目として開講しています。また、半導体産業のみならず多くの産業分野では、データ分析能力を有する多様な専門人材が求められています。本校では充実したAI・数理データサイエンス教育によるDX人材育成に取り組んでおり、すべての学生が次世代の産業と社会を支える人材として活躍できることを確信しています。

さて、令和6年度は校舎H棟（情報棟）の改修工事が実施されました。このご挨拶が届け頃にはおおむね竣工しているかと思いますが、工事期間中は、講義室や教員室の移動があり、関係の皆様には、ご不便をお掛けしましたことお詫び申し上げます。今後施設改修が順次行われることになるかと思えますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後となりましたが、令和7年が皆様
の飛躍の年となることを祈念して、年初
のご挨拶とさせていただきます。



新学生会長
吉原ゆい
4年2組

新しく学生会長に就任致しました、都市環境系4年の吉原ゆいです。部活はポピュラーソング部とダンス部に所属しており、現在ポピュラーソング部では部長として部活に携わっています。

私は1年生の頃から学生会役員として活動しており、今まで書記次長と書記長を経験しました。前役職の書記長では、体育大会の得点記録、交流会の参加及び議事録作成を行ってきました。

そして今回、学生会長という大きな役割を担わせて頂くことになりました。選んで頂いたからには今まで培った力を存分に

発揮し、学校のために精一杯尽くしたいと思います。

私たち学生会の主な活動内容は、体育大会・高専祭などの行事の運営や、学生総会・評議会の開催、毎年秋頃に行われる道内4高専交流会への参加などです。今まで先輩方が挑戦してきた行事での新しい試みや過ごしやすい学校作り、学生会の仲間や各委員会などと協力し、さらなる高みを目指し成功するよう努めます。不慣れではありますが、皆さんの期待に応えられるように全力で役を全うしますのでご協力よろしくお願いします！



女子寮新寮長
羽川綺香
4年3組

この度、楓和寮の寮長に就任しました、応用化学・生物系4年の羽川綺香です。寮長という立場において、至らない点や未熟な部分も多くありますが、これは伸び代しかないとも言えると思うので、たくさん努力をしていきたいです。

寮生活では、普通の学校生活や家庭では経験できないような、縦のつながりや調和を築くことができます。このような環境の中で、かけがえのない友達に出会えることもあります。しかし寮での生活の中で衝突や困難、不満に直面することもあるかもしれません。ですが、そうした

経験ですら自分を成長させてくれる糧になると思います。そのため、私は寮生の皆さんに、寮生活でしか得られない多くの経験をして欲しいと思います。そして、その経験を通して成長し、たくさんの思い出を作り、様々なことを吸収してほしいです。

最後に、私は寮長として寮生の皆さんの意見や要望にできる限り対応していきます。また、何かトラブルが起きた際には、指導寮生と協力し、寮生の皆さんが安心して暮らせる寮にしたいです。そして、寮長で良かったと思ってもらえるように、また自分自身も思えるように、1年間全力で努めていきます。どうぞよろしくお願いします。



高専祭について

高専祭実行委員長 5年2組 中村求利

今年度、高専祭実行委員長を務めました環境5年の中村求利です。今年度の高専祭は、コロナウイルスの影響で行事や部活動に援助費が回り、予算に余裕があった昨年度までとは異なり、コロナ前と同じ予算水準に戻りました。それに加え、物価高騰やコロナ期間に新たに取入れたイベントの影響で、予算的に非常に厳しい状況となりました。そうした制約の中でも、多くの学生の協力とアイデアを結集することで、規模を縮小することなく無事に高専祭を開催することができました。特に、実行委員の皆さんには、自分のことを後回しにしながら、睡眠時間を削って取り組んでいただき、とても感謝しています。その努力のおかげで、多くの一般学生や外部から来ていただいたお客さまに楽しんでいただけたのが何より嬉しかったです。また、「ただ楽しんでいただけ」と思っている学生たちも実行委員の身からしたら、心の支えとなり、まさに今年のテーマ「チーム苦達」を体現しているように感じました。至らない点も多く、ご迷惑をおかけする場面もありましたが、最後まで支えていただき、本当にありがとうございました。



体育委員長 5年2組 青木 温

皆さんこんにちは。体育委員長の青木温です。

今年も冬季体育大会が無事に終わり、振り返ると、多くのことを学び、成長できた一日だったと感じています。準備段階から大会当日の進行まで体育委員全員で全力で取り組みました。責任の重さを実感する一方で、無事に終わらせることができた達成感も大きかったです。

今年の競技は、フットサル、相撲、バスケ、卓球、女子ドッジボール、マリオカート、学科対抗綱引きなど、様々な競技がありました。

特に学科対抗綱引きは、学科を越えたチームワークと一体感を感じさせてくれた競技でした。どの学科も力を尽くし、最後まで全力で戦い抜いたことが、何よりも印象

深いものとなりました。

また、運動が得意ではない学生も楽しんでもらえるようにと、取り入れたゲーム競技では、体力に自信のない人も参加でき、運動能力に関わらず、みんなで一緒に盛り上がることができました。自分のペースで参加できる競技があったおかげで、みんなで一緒に楽しむことができたと思います。

学生たちの協力があってこそ、ここまで素晴らしい体育大会が実現できたと実感しています。ありがとうございました。体育大会を通じて、ただ競技を楽しむだけでなく、仲間との絆や協力することの大切さを改めて感じました。



冬
季
体
育
大
会

保護者懇談会

令和6年度 保護者懇談会の実施報告

教務主事補 中村嘉彦

令和6年度の保護者懇談会を10月25日（金）に実施いたしました。保護者懇談会には計685名（当日以外に懇談された方229名およびTeamsや電話等を用いたりリモート懇談104名を含む。全体の出席率は70.1%）の保護者の皆様にご参加いただきました。お忙しい中ご出席いただきましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。教職員と保護者の皆様が情報を共有し連携していくことが重要であり、保護者懇談会はそのような情報交換・共有、および、連携の一助となる機会となるものです。そのため、来年度以降に向けて、よりよい行事となりますように準備・検討を進めていく所存でございます。

例年、保護者懇談会では主に第4学年の保護者の皆様を対象として今後の就職・進学に向けた各系専門系教員による進路説明会を午前・午後の計2回実施しております。各専門系での就職・進学状況をご確認いただくとともに、ご家庭でもよくお話をさせていただきますようお願いいたします。

また、1～3年生は創造工学やHR等の授業において様々な進路を選択した卒業生による講演会や苫小牧高専協力会企業の方々との懇談会など学生自ら進路を考える機会を設け、キャリア教育を進めております。低学年のうちからご家庭でも進路について話題に取り上げていただけますと幸いです。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、今後とも学校およびその窓口となる担任との連携を密にし、苫小牧高専における教育・研究、学校・寮生活等へのご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



「科学のとびら2024～苫小牧高専実験教室～」を開催しました

地域共同研究センター長 長澤智明

11月9日（土）にイオンモール苫小牧1階セントラルコートにて、小・中学生を中心とする苫小牧市近郊の住民の方を対象とし、「科学のとびら2024～苫小牧高専実験教室～」を開催しました。

本事業は、地域の小・中学生をはじめとする地域住民に対して、科学に触れる機会を提供し、その楽しさ、面白さを知ってもらうことや、理科離れが叫ばれる小・中学生に、科学への興味を持ってもらう「きっかけ作り」の一助とすることを主目的として実施しています。

今回は、教職員と学生により「電子オルゴールを作ってみよう」「仮想空間を体験してみよう」「慣性を体験しよう」の3つのテーマを用意しました。当日は朝から多くの方に来場いただき、150名以上の方々に参加いただきました。

参加者からのアンケートでは、「とても楽しかった」「家に帰っても早速やってみたい」「学生が丁寧に教えてくれたので、楽しく科学に触れることができた」など好評いただき、地域の皆様に科学への興味をもってもらう一助になったものと思われまます。

終わりに、本事業に協力いただいたイオンモール苫小牧関係者の皆様、教職員並びに本校学生、そして当日来場くださった参加者の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



KOSEN ROBOT CONTEST 2024

高専ロボコン2024北海道地区大会

ロボットテクノロジー部部長 5年5組 元木大輔

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）は、全国の高専生が、毎年異なる競技課題に対し、アイデアを駆使してロボットを製作し、競技を通じてその成果を競うものです。

今年の競技テーマは“ロボたちの帰還”です。ロボット1（輸送船）は競技フィールドのエリアA（基地）から、複数のロボット2（探査船）をエリアC（探査する星）にある目標地点に「着地」させます。エリアAとエリアCの間にはエリアB（危険区域）があり、ロボットはここに触れてはなりません。ロボット2はエリアCにあるオブジェクト（探査対象のボールと箱）を「回収」し、それらをエリアAに「帰還」させます。



競技におけるポイント獲得の方法は2種類です。①最初にエリアCに着地したロボット2の着地地点が、着地の目標地点により近いこと（100点～1点）、②エリアCにあるオブジェクトをエリアAに正しく帰還させること（10点・60点）です。

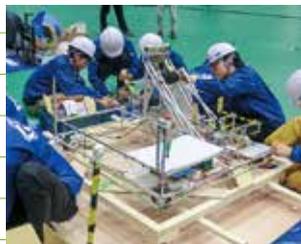
本校からは、A、Bの2チームが北海道地区大会に出場しました。

Aチーム（プロジェクト名：ネジカタメパワーマシマシ）はラーメンをコンセプトにしました。ロボット1は、定荷重ばねによる投石器(カタパルト)型の機構により、ロボット2をエリアCに2台射出します。射出される2台のロボットの役割は、1台目は箱を回収することであり、2台目は1台目を投石機の機構でエリアAに帰還させることです。これによって、箱を積んだ1台目がエリアAに帰還し、ポイントゲットを狙います。

Bチーム(プロジェクト名:ルネサンス)は西洋的な“死と再生”をデザインに織り込んだロボットです。ロボット1はAチームと同様のロボット射出機構を2つ搭載しています。ロボット2の1台目は、ソリ型の形状でエリアCの100点着地を狙います。2台目はエリアCのボールをピッチングマシンの機構を使って、ボールに回転をかけてからエリアC内でバウンドさせ、エリアAにボールを帰還させます。

惜しくも地区大会で優勝を果たせず、全国大会への出場は叶いませんでしたが、Aチームはロボットのデザインが評価されデザイン賞、安定した射出と着地が評価され特別賞（ローム賞）を受賞しました。Bチームは、正確な射出と、射出したロボットの衝撃を吸収する素材や加工の工夫が評価され、技術賞と特別賞（マブチモータ賞）を受賞しました。

最後に、ご支援くださっている樽前会の皆様、OBの皆様、ご指導くださっている先生方、そして、日ごろから応援・協力いただいている部員のご家族や学校の仲間たち、苫小牧高専の皆様にも、心より感謝申し上げます。



第3学年 道内工場見学旅行



3年1組
クレイン大和
ギャリー

On the first day we went to one of Isuzu's Proving Grounds and learned of the company's history and operations. We also toured the car test course in a bus. In the afternoon, we visited DYNAX, a former workplace of Mr.Toma. That evening we stayed at a hotel in Noboribetsu. The meals were excellent, but the bug infestations were an inconvenience. The next day everyone was noticeably tired. We visited Nippon Steel Corporation and the Muroran Institute of Technology. However, some people fell asleep during the tours. Overall, the trip was incredibly fun and each place that we went to was fascinating. I look forward to next year's trip too.



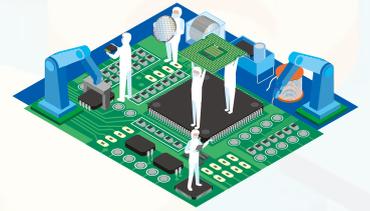
3年2組
阿部柚花

見学に行った現場は、時折雪が降る中とても寒くて、夏場もすぐ暑いと思うのでとても体力を使う大変な仕事だと思いました。大変な仕事なので、技術者の収入は良いという話を聞きました。建設する構造物の費用が億単位と聞き、その額に驚きました。原資は私たちの税金なので、もっと安価に建設できる方法はないのか考えてみたいです。技術面では、ドローンを使った作業など、今自分たちが学んでいるAIデータサイエンスの内容を生かせる機会が土木の現場にもあるんだと分かりました。また、現場事務所では、女性トイレと男性トイレが分けられており、割合が少ない女性にも働きやすい環境で、安心して働くことができると感じました。普段入ることができない現場で見聞きし、とても勉強になりました。



3年3組
阿部真偉琉

3年3組はビジネスEXPO、北海道大学大学院環境科学院、株式会社希松北海道工園・工場を見学させていただきました。ビジネスEXPOでは半導体関連企業の方からのお話を聞き、企業のブース見学することができました。株式会社希松では製品の製造、品質管理、梱包・出荷といった一連の流れを見学させていただきました。北海道大学大学院環境科学院では研究室ごとに特色のある研究内容や大学院生としての生活について説明していただきました。いずれの見学先にも苫小牧高専のOB・OGが所属しており、ご活躍されていたことがすごく印象的でした。

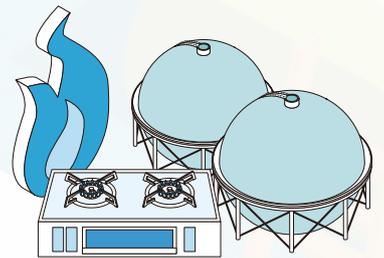


これからコース選択や進路選択を控えている中で、企業と大学院の両方を見学できたことはとても有意義な時間となりました。見学旅行で学んだことを今後の学生生活や進路選択に活かしていきたいです。



3年4組
大塚 然

初日の午前中はビジネスEXPO見学で、様々な企業を見ることができた。キャラクターを配っていた企業もあり、友達と食べた味は格別だった。午後は北海道ガス石狩LNG基地を見学したが、液化天然ガスを保存し気体にして家庭に送っていることを学んだ。2日目の午前に行った北海道科学大学では、詳しい大学の説明と学内の見学をさせてもらった。学内はとても綺麗でデザイン性があり、ここで勉強をしたいと感じさせる大学だった。午後のミツミ電機千歳事業所は半導体製造がメインだが、精密機器の部品、バッテリーなども世界シェアが高く、これからのラピダスに負けないくらいすごい企業だと感じた。ホテルのプールも楽しく、とても充実した2日間であった。



3年5組
小泉健太

情報科学・工学系では、ビジネスEXPO、北海道大学情報センター、トヨタ自動車北海道を見学しました。ビジネスEXPOでは、様々な分野の企業がそれぞれの商品をブースで展示していました。北海道大学情報センターではスーパーコンピュータと活用法について講義を受けました。また、その後実際にスーパーコンピュータを見学しました。トヨタ自動車北海道ではトランスファの製造を見学しました。不良品を無くすポカヨケやアンドンなど情報のマネジメント分野につながる工夫がたくさんありました。



第4学年 総合研修旅行



4年1組
野澤玲音

私 たちは、11月5日（火）の夕方、大阪天王寺のホテルに集合し、6日（水）～8日（金）の3日間で関西地域の5社を見学しました。6日に訪問した大阪ガス(株)ガス科学館では複数の体験コースを巡り環境問題を学び、大阪シーリング印刷(株)大阪工場では工場見学のほか、高専OBによる仕事に関する講演を聞きました。7日はパナソニックミュージアムで商品開発と松下幸之助の歴史を学び、ダイキン工業(株)淀川製作所ではグローバル企業の取組みを学びました。8日は(同)ユー・エス・ジェイでライド・アトラクションのメンテナンス方法を学びました。企業見学では新たな知見を得られ、昼食やホテルでの交流では絆を深め、就職に向けた意識を高揚できました。



4年2組
鈴木 宗

都 市環境系では茨城県のトンネルの工事現場、埼玉県荒川水循環センター、日本未来館を見学しました。また、OBによる講演会にも参加しました。昔の土木業界はきつい、汚い、危険と言われていましたが、最近では週休二日制が推進されていて、働きやすくなっていると感じました。

さらに、ARを使って完成予定の図面が立体的に見えたり、ドローンにカメラをつけて測量したりなど最新のICT施工を取り入れ、新たな技術を積極的に取り入れていました。



私はゼネコンで働きたいと思っており、労働環境などに不安がありましたが、今回の研修旅行を経て安心しました。卒業したら離れ離れになってしまうクラスメートと楽しく旅行が出来、満足しています。



4年3組
山中 柚

応 用化学・生物系では、王子ホールディングス 苫小牧工業高等専門学校同窓会関東支部、第一三共プロファーマ株式会社 平塚工場、第一三共ケミカルファーマ株式会社 小田原工場、日本ゼオン株式会社 川崎工場、株式会社日本触媒 川崎製造所及び日本科学未来館を訪問しました。

私は第一三共ケミカルファーマ株式会社で試験課の業務の見学のときに分析機器を見て回ったことで品質管理や試験等に興味を持ちました。これからの進路に向け、苫小牧工業高等専門学校同窓会関東支部、第一三共プロファーマ株式会社では本校OB・OGより、就職してからの業務内容や面接のことなど大変役に立つお話を頂く事ができました。

今回の総合研修旅行は有意義なものとなり、自身の成長ができたと思います。



4年4組
花田 傑

私 たち電気電子系は、NTT技術資料館、王子マテリアル江戸川工場、電源開発磯子火力発電所、トビー工業綾瀬工場、三菱ビルソリューションズ教育センターの計5か所を見学させていただきました。

特に三菱ビルソリューションズでは、エスカレーターの内部構造や、実際に技術者さんが作業している所を見学でき、とても興味深いものとなりました。

他にも樽前会にてOBの方のお話を聞けたり、自主研修で友人と東京都内を巡るなどして、全体的にとっても有意義な研修旅行となりました。今回学んだことを糧に、進路などを考えていく上で活かしていきたいです。



4年5組
高橋 瞭太

研 修旅行では、普段の学習内容の応用方法がわかります。例えば、NHKでは、ハッシュ値における通信内容の改ざん検知、東京農大ではマイコンによる温度制御、NICTでは、量子化暗号化技術ですね。さらに、NTT技術研究所では光ファイバー、アクセントチュアだとセキュリティの演習といった感じでしょうか。自分たちの学んだ知識が生きて、自信を持つようになりました。自分たちが当たり前だと思っていたことに疑いを持ち常識の殻を破れます。今回の旅行で再認識した重要なことは、「思い切って行動すること」です。皆と日々積極的に取り組みながら新たなことに疑問を持ちアンテナを張ります。その上で将来のビジョンを適宜確認し、学生生活を今後も全うします。





令和6年8月9日から26日の18日間、学術交流協定校であるニュージーランドEITでの研修が行われました。参加者7名で座談会を行いました。
引率教員：上場一慶 助教 聞き手：上場一慶 助教 平野博人 教授

5年2組：齊藤翔太 4年3組：阿賀友理恵 3年1組：久郷亮太 3年1組：田中琉翔 3年1組：直江志太郎 3年1組：和田優 3年3組 吉村凜子

ニュージーランドEIT研修座談会

海外研修に参加したきっかけは？

久郷 僕もともと海外に留学してみたくったからです。留学についていろいろ調べてみると、高専には海外研修プログラムがあって、教員が引率することもあり、初めての留学は安心することも大事だと思つて研修に参加しようと思いました。

和田 まず、中学生の時に地元の友好都市であるフィリピンにホームステイするはずだったんですが、コロナが拡大してしまい中止になってしまつて、そのようなこともあり、海外の憧れはずっとありました。それで友達に「留学行かないか」と誘われたのがきっかけです。

田中 僕は小学校の頃から英語を習つていて、中学生くらいの時から海外行つて英語を学んでみたいと思つていました。なかなか機会がなかったんですけど、学校の海外研修プログラムということもあり、良い機会だなと思つて参加しました。

齊藤 海外研修にずっと行きたかったんですけど、五年生になるまでコロナだったりで、部活動で色々時間なくて。そのようなこともあり、やっと海外に行ける機会があるということで行ったことなかつたので、とりあえず応募してみたつていう感じです。

直江 もともと家族と海外旅行に行きたいという話をして、そんなときにコロナで行けなくて、そのまま中学三年生になつたんですが、高専のことを調べていたら、留学のプランがあり、ニュージーランドに行けることがわかつて、親に行きたいと願つて、行かせてもらいました。

吉村 私は小学校の時から英語を習つていましたが、実際に英語で生活するという経験をしたことがなかったため、英語圏に留学に行って、英語だけで生活するということを体験してみたかったからです。

阿賀 私は以前から国外の文化や人間性について興味があつて、実際にこの目で見て感じてみたいと思つたので応募しました。

研修を振り返つて印象に残つて
久郷 ホストファミリーとお別れ前日の夜、みんなでご飯を食べて、その後色々話

をしたんですけど、その時に別れの寂しさでホストファミリーが泣いてしまつて。僕たちが思っている以上にホストファミリーは僕たちを思つてくれていたんだというのがとても印象に残っています。

齊藤 ホストファミリーの家に大きなプールがあつたんですが、冬でも寒いのに、「プールあるのが、お金持ちだな」と思つて、みんなで入つて真赤になりました。(笑)みんなでシャワーを浴びて、「あ〜風邪ひかなくて良かったね」と楽しかった印象があります。

吉村 オークランド空港に着いた時、何かいるなと思つてよく見たら、室内にスヌーズがいて。なんで室内に鳥がいるんだろ？ということがありました。周りの人は全然気にしている素振りがないので、室内に鳥がいてもあんまり驚かないのがニュージーランドなのかなと、すこ〜く印象に残っています。

直江 ニュージーランドの人と関わることが、全般的に印象に残っています。学校でニュージーランドのEITに通つてる人と何回か話したんですけど、中国人に間違えられることもありました。(笑)

和田 時速20キロくらい出る電動キックスクーターで通学しました。

田中 僕はキャッシュレス決済が多いということを知らなくて。空港に着いて自販機で飲み物買おうと思つたら現金が使える。他の大学の自販機でもほぼ現金が使えるというところがありました。キャッシュレスメインだったことが一番印象に残っています。

上場 全然現金使わなかつた？

田中 はい。

研修に参加して得たものは？

久郷 英語の発音の大切さです。正しい発音の大切さ、RとLの発音。あと、EITの大学でも習つたんですが、ホストファミリーと会話する中で、ちよつと発音が違つて、うんってなることがあるんですよ。発音で伝える為にもすこ〜く大切だと学びました。

齊藤 すこ〜く良い経験が得られたなと思つています。英語を話すという経験もすつて、海外でコミュニケーションが取れるという成功体験が得られたことがすこ〜く良かったです。実際行つてみると話せるかどうかとか、どれくらいで通せるようになるかは全くわからないので、今回通商ちよつと行つてみて日常会話くらいだったら、困らないくらいにはなつたなという成功体験が自分の中で得られたのです。すこ〜く良い旅でした。

田中 失敗を恐れなくてとりあえず話してみることです。僕は初日にホストファミリーとそのファミリーの家に泊まつた3人で散歩に行った時、全然話しかけられなくて、最初の頃は何を話したらいいのかわからなかつたりして全然積極的に話せなかつたのですが、話してみたら、相手も結構理解しようとしてくれるので、とりあえず話してみようという積極性が得られました。

吉村 自分から英語を積極的に話す勇氣みたいなものが得られたかと思つています。なかなか最初のうちは話してちゃんと通じるかなという不安が大きくて、自分から話しかけるのは難しかったのですが、ホストファミリーやフラスメートに自分から積極的に話しかけたら、相手も色々返してくれて会話が続いたらすこ〜く楽しくて、勇氣を出すのが一つ身についたかなと思つています。

阿賀 英語に対する意欲・向上心です。最初全然話せなかつたのですが、普通に知つてる単語でもちゃんと伝わるのが嬉しかったので、意欲が湧いて良かつたと思つています。

和田 わからなくても一生懸命伝える能力です。英語全然分からなかつたのですが、ジェスチャーを使つたり、写真を見せたりしたら意外と伝わるし、そんなに難しい英語を使わなくても中学校で学んだレベルの英語だけでも会話できたので、ひとまず一生懸命伝えることが大切だということを知りました。

直江 冷たいシャワーに耐える忍耐力。というのは冗談ですけど。(笑)一番大きいのは、遠く離れた友達ができたとのがすこ〜く自分の中で嬉しくて、ニュージーランド人の友達はそのなかでできなかったのですが、同じ留学生の友達何人かできて、SNSも交換しました。たまにラインが来たり、インスタに「いいね」してくれたりするので、離れていても繋がっているんだなということを感じました。

今だから言える失敗談

久郷 多分誰しもが後悔するところなんですけど、やっぱりもつと事前に英語を勉強すればよかつたなと思つています。私たちがいっても書いている英語の文とか、文法とかじゃなくて、日常会話を勉強すればよかつたなと思つています。

吉村 初日に、お風呂から上がった後にドライヤーを使ったのですが、ニュージーランドと日本のコンセントの規格は違つて変換器を差して、そこに日本の製品を差して使つたんですけど、その変換器の規格とドライヤーの規格をちゃんと見ていなくて、ドライヤーをつけた瞬間に変換器が壊れたんですよ。(笑)

その変換器は、よく見たらたまたま準備のヒューズがついていたので、なんとか持ちこたえました。事前に電化製品の規格は見ておいた方がいいです。

他 ちゃんと失敗談だな。

和田 自分は剣道をやってたので、木刀をプレゼントしようかと思つたのですが、木刀で持つていけるか不安じゃないですか？そこを調べず、追加料金なしの持ち込み、預入手荷物一個までというのが失敗談です。ついて持っていけなかつたというのが失敗談です。

- ① インターンシップ先の社名と所在地を教えてください。
- ② インターンシップの日数と期間は?
- ③ その受け入れ先を選んだ理由は?
- ④ 行く前に不安だったことは?
- ⑤ 受け入れ先でどんな仕事を体験しましたか?
- ⑥ 振り返って特に印象に残っていることは?
- ⑦ 今だから言える失敗談は?
- ⑧ 楽しかったことは?
- ⑨ インターンシップで得たものは?
- ⑩ 後輩へのアドバイスは?

- ① 株式会社JALエンジニアリング：東京都大田区羽田空港3-5-1
- ② 8月19日(月)～8月23日(金)：5日間
- ③ 過去のインターンシップ先資料を見て航空業界の仕事内容に興味を持ちました。また、遊びや旅行など新千歳空港や飛行機を利用する機会が多く、親近感のあるカッコいい職業だと思ったからです。
- ④ 初めての場所で、初めて出会う高専生約20名や企業の方々と上手くコミュニケーションがとれるか不安でした。また、学校でも旅行でもないのに、気持ちのスイッチの切り替えが難しかったです。
- ⑤ 羽田空港では、格納庫と駐機場での点検・整備見学やコックピットのシミュレーター体験、成田空港では、エンジンや装備品のメンテナンスを体験しました。
- ⑥ 最終日、羽田空港で運航中の「着陸→点検→離陸」の流れを駐機場で見学しました。離陸時に滑走路前で手を振って旅客機のお見送りをしました。また、1/7000個の幸せの黄色いコンテナが積み込まれる瞬間を見たことや、A350とB777のコックピットに座ったことも貴重な体験でした。
- ⑦ 出退勤時の靴擦れに絆創膏だけでは耐えきれず、現地でビジネスシューズを2足買い替えたことです。見学中の安全靴が歩きやすすぎてガラスの靴くらい輝いて見えました。



- ① 苫小牧港管理組合：北海道苫小牧市入船町3丁目4番21号ハーバーFビル3階
- ② 7月29日(月)～8月2日(金)：5日間
- ③ 私は将来港にかかわる仕事をしたいと思っているので、まずは身近な苫小牧港でどのような仕事をしているのかを体験してみたいと思ったからです。
- ④ 特にはなかったのですが、初日にスーツで行くか作業服で行くかというのを迷ったことです。
- ⑤ 苫小牧港管理組合の各部署の仕事内容を聞いたり、港を実際に見て回ったりしたことです。
- ⑥ 苫小牧港は老朽化が激しいことが一番印象に残っています。特に、車止めや防舷材が劣化していて危険な箇所も多かったのですが、しかし、予算の関係ですぐには直せなかったりするのでどれを先に直すかを考えるのが大変だということも印象に残っています。
- ⑦ 昼休みのときに港管理組合のオフィスを探検しようと思って歩き回っていたのですが、職員の方がほとんど寝ていて自分が歩き回っていたせいで起こしてしまったことです。
- ⑧ 国際コンテナターミナルというところにある、ガントリークレーンに上ったことです。



- ① 東邦化学工業株式会社 千葉工場：千葉県袖ヶ浦市
- ② 8月19日(月)～8月23日(金)：5日間
- ③ 中間原料等の大きな規模での製造をしている企業に行きたいと決めていたことと、インターンシップ募集開始日の申し込み企業であったため選びました。
- ④ 飛行機や電車などの交通面で、迷わないか不安でしたが、前泊の対応があったことで何とかどり着きました。…交通系ICカードを事前に購入することをおすすめします。
- ⑤ 製品の充填作業や、IR・滴定などの基本的な分析操作の他、消火訓練等の安全教育実習をしました。
- ⑥ 最終日に工場長と高専OB・OGの社員の方々との座談会をしたことです。工場長となると堅苦しいイメージがありましたが、とても親しみやすい方で社員との距離が近いことに驚きました。また、苫高専卒業生の方と自身の学校についての話が盛り上がり嬉しかったです。
- ⑦ 3日目の研修後、参加者4人で企業の方からおすすめされたご当地ラーメンを食べに、2時間以上歩きましたが、3店舗すべて定休日だったことです。(結局インドカレーを食べました。) 親睦も深まりましたが、翌日の研修は、全員筋肉痛で。失敗です笑



- ⑧ 全国の高専生と話をしたり遊んだり、交流できたことです。様々な方言やイントネーションが入り混じった会話が新鮮で面白かったです。赤点と単位に苦しめられているのは、全国の高専生共通でした。
- ⑨ 駐機場の暑さや緊張感、食堂や廊下など仕事以外の場面でも部署を超えて笑顔で会話をする様子など、働く現場の環境や働いている方々の雰囲気を知ることができました。また、一緒に遊びに行く仲の高専の友達ができました。
- ⑩ 4年生後期の研修旅行や企業説明会でも企業を知る機会がありますが、インターンシップでは各現場で実際に活躍している方から話を聞くことができるので、より詳しく専門的な仕事の内容ややりがいを学ぶことができます。また、企業に対するイメージとのギャップや初対面の人との関わり、自分の力でホテル生活や通勤などインターンシップならではの発見があり、非日常で刺激的な夏休みになるとと思います。



4年1組
上野愛結



- 高さが40mもあり床が透けていたので怖かったです。楽しかったです。
- ⑨ インターンシップで学べたものは、苫小牧港管理組合は苫小牧港を維持管理するだけでなく、港を地域の人知ってもらったり、企業に使ってもらったりするために広報の活動も行っていることです。とても驚きました。
- ⑩ インターンはとても貴重な機会なので必ず行った方がいいと思います。自分は高専卒業後は進学するつもりですが今回のインターンシップに行き行って将来の就職の参考になりました。あとは、自分がやりたいと思っている会社に行くことが大切だと思います。やりたいことがなくても自分の将来を想像してこの会社、職種ならやっていけそうだとしっかり考えて決めるといいと思います。



4年2組
中谷篤拓

- ⑤ 工場のいろんな施設を見学したことです。工場排水の排出口を見るために川へ行ったり、冷蔵倉庫に凍えたり、普段はできない特別な体験ばかりで楽しかったです。
- ⑨ 就職に対する具体的なイメージを得ることができたと思います。普段学校生活で学んでいることが実際の現場で、さらに社会において、どのように役立っているか、その重要性を知ることができ、改めて自分の専門が好きになりました。
- ⑩ 4年時には、インターンシップの他にも道外研修旅行もあります。ですが、インターンシップは体験・実習が多く、研修旅行とはまた別の、特別な体験が沢山できます。工場の方々との距離も近く、吸収できることも多いので、希望の職種が決まっていなくてもインターンシップへ行ってみることをお勧めします。また、4年生になるとすぐに、募集が開始されるので、一度、近くの先輩や、先生の話聞き、まずは気になる企業を探るところから、早めに行動を始めてみるといいかと思います!



4年3組
岡嶋美結

インターンシップQ&A

① サントリーグループ(栃木梓の森工場、榛名工場、群馬ビール工場)
栃木県栃木市仲方町、群馬県渋川市半田、群馬県邑楽郡千代田町

② 8月20日(火)～8月24日(土)：5日間

③ 大企業というのも理由の一つなのですが、もともと食品メーカーに興味があったこと、3年時の創造工学でサントリーさんの人事部の方とお話しする機会があり、その方のお話を聞いてからサントリーに興味をもったためです。

④ 初道外だったので正直移動が一番不安でしたが、インターンシップに参加している他の学生とうまく喋られるかが不安でした。結果的には心配する必要ないほど他の学生がいい人たちだったので、仲良く楽しく活動することができました。

⑤ 工場見学が主でしたが、ビール工場では3DCAD、6缶パックの手織り体験、スピリッツ工場ではラベル貼り、官能検査の体験、清涼飲料工場では官能検査の体験をしました。

⑥ 3工場見学させていただいて感じたのは、どの工場も上司部下関係なく社員さん達の仲が良さそうだったことです。一緒にお昼ご飯を食べさせていただいたのですが、おしゃべりしながら楽しく食事ができました。

⑦ グループ報告会があったのですが、人前に立って発表することがとても苦手で緊張してしまい、言葉が詰まってしまったことです。一緒にいるグループの人が上手にフォローしてくれたのでとても助かりました。



① 株式会社ログオンシステム：北海道札幌市

② 8月5日(月)～8月9日(金)：5日間

③ Web系のシステム開発に興味があり、Javaを使いWebシステムの研修をしていて、札幌市内の比較の実家からも通いやすい場所ということで志望した。

④ インターンシップの研修ではあるが、会社に入って仕事をする経験はなかったもので、うまくやれるか不安があった。

⑤ 入社後の新人研修でやっている内容を体験させていただいた。実際の内容としては、JavaSpringbootを用いた社員情報管理システムの実装であった。

⑥ 実装中にエラーが出た原因の多くは、ただのタイプミスだった。そのタイプミスが減らすためにできる対策として、「多数出現する関数名、変数名はコピペをする」というものだった。

⑦ 実装中にエラーが出て、自分で30分ほど考え、インターン担当の社員さんに相談して結局ただのタイプミスだった。もっとコーディングになれ、エラーのつぶし方を覚える必要



① 地方独立行政法人北海道立総合研究機構工場試験場
北海道札幌市

② 7月29日(月)～8月9日(金)：10日間

③ 本科4年の見学旅行で訪問した際に研究者の方々の取り組みに感銘を受け、自身の研究テーマに対して、皆様から直接指導を受けられる貴重な機会だと考えたから。

④ 2週間という短い期間で研究成果を出し、最後には成果発表までしなければならないことに対して、十分な研究成果を残すことができるかすごく不安であった。

⑤ 『デジタルカーリングにおける簡易シミュレーションモデルの開発』という自身の研究テーマを持ち込み、研究活動に取り組んだ。

⑥ 研究所の皆様自身の研究内容を細部まで見ていただいたこと。特に、最終日の成果発表会での質疑応答では非常に濃密な議論ができた。研究所の皆様と専門的な討論の機会を設けていただき、研究の新たな視座となった。

⑦ インターンシップの1週間目は目立った成果が得られず、成果発表会という期限が迫る中で焦りを感じ



⑧ 仕事体験もちろんですが、工場までの移動時間に学生達でおしゃべりできたことです。いろんな人と仲良くなれて嬉しかったです。

⑨ インターンシップを通してチームワーク力を上げることができました。他の高専の学生と関わる機会が少ないため、知らない人との接し方を改めて学べたのでとても貴重な時間でした。また、グループワークや社員さんとの交流のなかでコミュニケーションの大切さも学べました。

⑩ 就活する子は就職したい場所が決まっているのならそこに行くべきだし、行きたいところがないのなら興味のある業種を探して、インターンシップに行った方がいいです。その会社の雰囲気や仕事の内容が大体わかるということと、なにより自分の好きな仕事を見て、体験することができるのでとても楽しいです。仮進級してしまうとインターンシップに行けないので、まずは勉強面頑張ってください。



4年4組

梅崎鈴愛

があると感じた。

③ Webで実装方法などを調べて手を動かしてコーディングをしていく中で、望んだ通りの挙動させることができたときには、正しくコーディングできた実感がわいて楽しかった。

④ 1社だけではあるが、会社の雰囲気や、仕事の内容に触れることで、就職の際の不安が少し払しょくされた。そして、システムとして開発するプログラムは、誰かが読む、使うという意識は今後に生かしていける経験となった。

⑤ 自分の興味のある所に行ってみるといいでしょう。せっかく夏休みの時間を使ってインターンに行くので、自分のやりたい実習をしているところ・行ってみたい会社を選ぶべきである。そしてどうせ行くならいろんな話を聞いて、実際に手を動かして業務内容を学べる場所を選ぶと学びが多くなると思う。



4年5組

中村飛鳥

じていた。今思えば、もっと早い段階から研究所の皆様積極的に相談をして、アドバイスをいただくべきだったと反省している。

③ 近くにある北海道大学の食堂で、昼休みに北大生気分を味わいながらのランチタイムがすごく楽しかった。うな重が日替わりメニューで登場した日は感動した。

④ 2週間で研究が進化したこともよかったが、最も大きな収穫は研究に取り組む姿勢で研究所の皆様から学べたこと。このインターンシップから帰宅後、研究活動の効率が明らかに向上し、研究への向き合い方が変わった。

⑤ 本科4年の学外実習は必修ではありませんが、進学希望の方も含め、ぜひ一度はインターンシップに参加することをお勧めします。そして、最初は担当の方に質問することに躊躇するかもしれませんが、わからないことは積極的に聞くようにしましょう。黙っていても「理解している」と判断されてしまうので、疑問点は必ず確認することが大切です。



創造工学専攻
情報エレクトロニクス系 1年
大沢岬紀

異文化交流 キャンプ

国際交流担当 アルテアガ・アルテアガ・フェルナンド

本年度にスタートしたグローバルエンジニア育成事業の一環として、異文化交流キャンプを実施しました。苫小牧高専の日本人学生および留学生と、北海道大学理学部に所属している留学生が参加する国際交流キャンプが10/25(金)～10/26(土)の1泊2日の日程で、小樽にある北海道大学忍路臨海実験所の施設を使用し開催されました。本校からの参加学生の人数は本科生および専攻科生を合わせて15名でした。

当イベントは、英語でのゲームなどを実施しながら英語能力とグローバルマインドセットを向上させることを目的としました。施設でのBBQの準備を英語でコミュニケーションを取りながら全員で協力して行いました。また、PowerPoint(2-3枚のスライド)を作成し、英語での自己紹介と文化(趣味)紹介をしました。北大の留学生と積極的に交流することができ、大変有意義なイベントになったとの感想が多く聞かれました。

来年度も開催する予定ですので、またみんなでEnjoyしましょう。



紡がれる物語

苫小牧高専English Campの挑戦

2025年1月11日(土)、苫小牧高専にてEnglish Camp 2024が開催されました。この活動は、新型コロナウイルスの影響下、海外研修の代替として市内でネイティブスピーカーと交流する機会を提供するために始まりました。参加者から大変好評を得て、今年で4回目を迎えることができました。今年度の参加者数は過去最大の19名となり、ますます盛況となっています。

今年のテーマは「Weaving One Story Together —みんなで紡ぐ一つの物語—」。このテーマのもと、参加者たちはグループに分かれ、「一人の青年のサクセスストーリー」を作成しました。参加者は、一定の条件下でそれぞれのアイデアを出し合い、英語講師の助言を受けながら英語での創作活動に没頭しました。

発表の際には、グループごとにパワーポイントを使って自分た

ちの物語を披露しました。アニメーション機能を駆使したり、朗読方法を工夫したり、それぞれのチームが持つ独自の特色を十分に発揮した発表でした。何度もこのイベントに参加している英語講師たちからは、学生たちのスピーキング能力が年々向上しているという評価をいただき、学生たちも自信を持って英会話に取り組んでいる様子でした。

最後には、全ての物語をまとめて一冊の本に仕上げました。題名は「The Path to Happiness」。本書は本校の公式ウェブサイト(<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/news/single/20838>)や図書館で読むことができます。学生たちが紡いだこの物語が、多くの人々に触れられることを願っています。



6つの物語のうちの一つ「Namerou's "Numenumu" Impact」



English Camp 2024 活動終了後の集合写真

甲野裕之教授が「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に選出されました

米国スタンフォード大学と Elsevier 社が 2019 年から毎年公表している「世界トップ 2%の科学者」を特定するリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」が2024年9月17日に更新・発表され、本校創造工学科 応用化学・生物系 甲野裕之 教授が「生涯 (careerlong)」および「単年 (single recent year)」の両区分で 5 年連続選出されました。

このリストは医学、工学、化学、ビジネスに至る 22 の科学分野と 174 のサブ分野において、国際的なジャーナルに 5 編以上の論文を発表している 900 万人以上の科学者の中から世界上位2%を選出し作成されたものです。世界最大級の抄録・引用文献データベース Scopus に基づいて論文数や総被引用回数など複合的指標で評価されており、世界で最も影響力のある科学者のランキングの一つとされています。

詳細は下記URLにてご確認ください。

Elsevier 社「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」● <https://elsevier.digitalcommonsdata.com/datasets/btchxktzyw/7>
World's Top 2% Scientists ● <https://topresearcherslist.com/>

「苫小牧高専地域連携シンポジウム2024」を開催しました

地域共同研究センター長 長澤智明

12月16日（月）に、グランドホテルニュー王子にて「苫小牧高専地域連携シンポジウム2024」を開催しました。

本イベントは、地域・社会に向けて本校が取り組む諸活動の発表や報告等を行い、今後の教育研究活動及び産学連携活動の発展に繋げるとともに、本校と地域企業等の連携強化を図ることを目的として例年開催しており、今年度は本校開校60周年記念事業の一環として開催しました。

記念講演として本校卒業生である株式会社本田技術研究所宇宙開発戦略室室長エグゼクティブチーフエンジニア櫻原一雄氏から「挑戦～地上から宇宙へ～」をテーマに、様々な「挑戦」をされてきたご自身の経験について講演いただきました。

引き続き、ポスターセッション形式により専攻科1年次学生27名が研究発表を行い、参加者からの様々な質問に対して、熱心に研

究内容を説明していました。

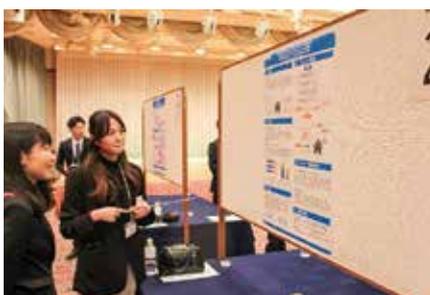
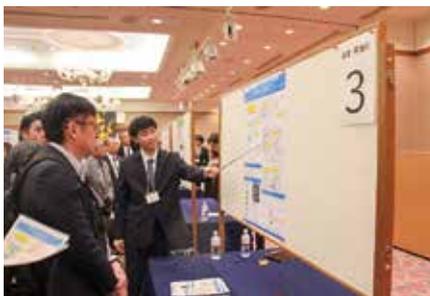
また、教員研究成果発表、タイ高専研究生による研究発表及び開校60周年記念展示も行いました。

本シンポジウムに参加いただいた方からは「櫻原さんのような素晴らしい先輩がいて驚きました」「とても面白い講演でした」「現役学生の一生懸命な研究発表がとても印象に残りました」といった感想や好評を多くいただきました。

シンポジウム後には、本校協力会主催による交流会が開催され、金澤苫小牧市長をはじめ、苫小牧市テクノセンター鈴木館長、本校同窓会前川会長など多数の方に参加いただき、本シンポジウムと合わせて、協力会会員及び本校教職員、学生約170名が懇談を行い、本校と協力会・地域との連携を再確認する一日となりました。

会場の様子（シンポジウム）

会場の様子（交流会）



キャリア教育センター活動報告

キャリア教育センター長 八田茂実

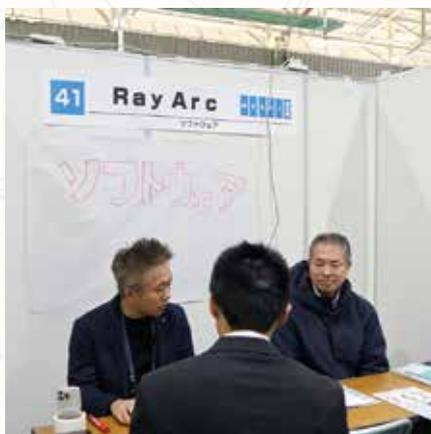
2024年度も、人手不足の深刻化やデジタルトランスフォーメーション（DX）の加速など、産業界は大きな変革期を迎えています。このような状況下で、企業各社は優秀な人材の確保と育成に力を注いでおり、苫小牧高専は実践的な技術者教育機関として、その社会的要請に応える重要な役割を担っています。

求人状況を見ると、本科では2,420社（前年度2382社）、専攻科では626社（前年度528社）と着実に増加しています。これは、コロナ禍からの経済回復に加え、産業界における技術革新への対応に向けた人材需要の高まりを反映しています。進路状況については、本科卒業生183名のうち、道内企業への就職が33名、道外企業への就職が84名、進学が62名（12月末時点）となっています。

キャリア教育センターでは、少子高齢化や働き方改革、AI・デジタル技術の急速な進展という時代の要請に応えるため、「変化に対応し、自らのキャリアを主体的にデザインする力」の育成を目指しています。具体的には、キャリア講話、創造工学の授業、ホームルーム活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力の向上、多様な価値観への理解促進、将来を見据えた思考力の養成に取り組んでいます。

また、同窓会「樽前会」および地域企業で構成される「苫小牧高専協力会」との密接な連携により、学生たちは実務に即した知識とスキルを習得する機会を得ています。企業ニーズを的確に把握し、それを教育内容に反映させることで、卒業後すぐに実践力を発揮できる人材の育成を目指しています。

今後も、少子高齢化の進行や産業構造の変革といった社会課題に適切に対応しながら、苫小牧高専の卒業生が社会の第一線で活躍し続けられるよう、地域企業や同窓会との連携を深め、時代が求める実践的な技術者教育を推進してまいります。



専攻科2年生が特許を取得しました

専攻科創造工学専攻2年生4名（宇野慎太郎さん、松村碧陽さん、水野太貴さん、鳥濱来央さん）が
出願していた発明について、審査の結果特許査定となりました。

4名は、専攻科の授業「マネジメント工学特論Ⅰ」の知的財産に関する演習で思いついた「脱ガムポイ
捨てガムボトル」のアイデアを令和5年度/パテントコンテストに応募して「優秀賞」を受賞していましたが、
その後弁理士さんとブラッシュアップを行い、自分たちで明細書を完成させて出願していたものです。

本発明の容器は、取り出したガムの容積をゴミ箱として利用できるだけでなく、遊び空間によるカシャ
カシャ音の発生も抑えることができるもので、ガム以外の容器にも応用することが可能です。



本校専攻科生が情報処理北海道シンポジウムで学術研究賞を受賞しました

2024年12月1日（日）、北見工業大学にて開催された「情報処理北海道シンポジウム 2024」において、
本校専攻科1年の大沢岬紀さんが発表した研究が学術研究賞を受賞しました。

学術研究賞は、シンポジウムで発表された情報処理技術に関する研究成果のうち、独創性や新規性に優
れ、特に学術的意義が認められる発表に贈られる賞です。

発表タイトルは「デジタルカーリングにおける高速シミュレーションの開発」であり、共著者は原田恵雨
准教授、土居茂雄教授、三上剛教授です。大沢さんは原田恵雨准教授の研究室に所属し、本研究に取り
組んでいます。

本研究では、デジタルカーリングのシミュレーションを高速化する技術が提案されました。この成果は今
後の研究においても重要な役割を果たすことが期待されています。具体的には、本シミュレーションを活用
し、デジタルカーリングの戦術を強化学習により効率的に学習させることを目指しています。

情報処理北海道シンポジウムは、道内の研究者や学生が最新の研究成果を発表する場として毎年開催されており、今年は52件の発表が行われました。



国語研究室

総合人文科学系 山際明利

国語担当教員として低学年の国語を担当していますが、それ以外
に一般選択の中国語、専攻科の人文社会科学特論（中国文化論）
を担当するのは、本来の専門が中国哲学だからです。今から一千
年ほど前、北宋の時代の儒学思想を研究しています。なかでも張載
（横渠先生、1020～1077）の思想を専門に研究してきました。張
載は思想史概説書に必ず登場する重要な思想家ですが、一般に朱
子学の先駆者と認識され、その気思想、天地気質の性説などは広
く知られるものの、朱子学に与えた影響は、周敦頤、二程子などと
比べて低く見積もられ、張載思想の特色を述べた専門書は存在し
ませんでした。令和四年、張載の思想を主題とした学位請求論文
を北海道大学に提出し、博士（文学）の学位を取得しました。この
論文を基に、日本学術振興会の研究成果公開助成を受けて、令和
六年十二月、北海道大学出版会から『張載思想研究宋明理学の中
の太虚説』を刊行しました。歴史上最初の、日本語による、張載の
思想を専門に論じた研究書です。本書において張載の虚気渾一思
想が従来言われてきた以上に近世儒学思想への影響力を保ったこ
と、特に従来言及の無かった点として、張載の思考方式が陽明学に

も大きな影響を与え
たと見られることを
明らかにしました。

現在は張載研究に
一区切りをつけ、朱
子の『儀礼経伝通
解』に関する研究に
没頭しています。研
究成果を十年以内
に、次の著書として公
刊できるよう励んで
います。

とうに六十歳を過ぎ、退職の日も近いのですが、学
問は一生のことであり、終りはありません。とりあ
えず退職の日までは、学生のみんにに老人も勉強するの
だという姿を見せ続けたいと希望しております。



研究室紹介

人事異動

○令和6年10月7日付

非常勤教職員

【採用】

事務補佐員（有馬准教授研究室） 山本 惣太

○令和6年10月9日付

非常勤教職員

【辞職】

事務補佐員（甲野教授研究室） 長谷川人美

○令和6年10月15日付

非常勤教職員

【採用】

技術補佐員（甲野教授研究室） 西 禎航太郎

技術補佐員（甲野教授研究室） 橋本 凜咲

○令和6年11月1日付

非常勤教職員

【採用】

総務課総務係事務補佐員 齊藤かおり

○令和7年1月16日付

教育職員

【退職】

創造工学科准教授（電気電子系担当） 伊藤 芳浩

○令和7年1月31日付

非常勤教職員

【雇用期間の満了】

技術補佐員（菊田教授研究室） 今 優花

技術補佐員（菊田教授研究室） 高橋 涼太

技術補佐員（甲野教授研究室） 井筒 歩夢

技術補佐員（甲野教授研究室） 宇山 諒

技術補佐員（甲野教授研究室） 竹田 聖

技術補佐員（甲野教授研究室） 西 禎航太郎

技術補佐員（甲野教授研究室） 橋本 凜咲

技術補佐員（甲野教授研究室） 横川 愛莉

技術補佐員（高橋教授研究室） 柏 正剛

事務補佐員（有馬准教授研究室） 山本 惣太

高専通信

Vol.167 CONTENTS

1	新年のご挨拶 新学生会長・新寮長の挨拶	9	インターンシップQ&A
2	高専祭 冬季体育大会	10	異文化交流キャンプ
3	保護者懇談会 科学のとびら	11	イングリッシュキャンプ 甲野裕之教授特集
4	ロボコン	12	地域連携シンポジウム
5	第3学年道内工場見学旅行	13	キャリア教育センター活動報告
6	第4学年総合研修旅行	14	TOPICS 研究室紹介 人事異動
7	ニュージーランドEIT研修座談会		
8			

編集後記

令和6年度はグローバルエンジニア育成事業が動き出し、国際交流活動が一層活発に行われた年でした。タイのカセサート大学への低学年派遣研修、ニュージーランドのEIT研修、異文化交流キャンプ、イングリッシュキャンプ、KOSEN Global Campが実施されました。また、マレーシアADTEC教職員研修、モンゴル高専化学系教員研修の受け入れなども実施いたしました。こうした活動を通して、国際コミュニケーション力の涵養と多文化共生理解を目指し、グローバルエンジニア育成体制構築に努めております。

高専通信167号では、高専祭、冬季体育大会、工場見学旅行、総合研修旅行などの学校行事関連の記事を中心に、校長の新年の挨拶、新学生会長・新寮長の挨拶、さらに高専ロボコン2024北海道地区大会報告などについて掲載しました。最新の情報は、本校HPをご覧くださいと思います。

令和7年度も本校の教育活動へのご理解、ご協力いただくとともに、苫小牧高専の新たな挑戦にご支援賜りますようお願い致します。

副校長（総務主事） 平野博人

